



週間情報



No.0331

発行日 令和3年9月7日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担 当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ フッ素化合物を使用する泡消火薬剤の生産体制の確保に関する申入れについて

全国消防長会

令和3年9月1日（水）、一般社団法人日本消火装置工業会の相賀事務局長に対し、全国消防長会技術委員会委員長から「フッ素化合物を使用する泡消火薬剤の生産体制の確保に関する申入れ」を行いました。

令和3年4月にPFOA又はその塩が、化学物質の審査及び製造などの規制に関する法律の第一種特定化学物質に指定され、また、PFOA関連物質についても、今後規制される予定であることから、PFOS等含有泡消火薬剤の更新（令和4年度末期限）のため、令和3年度及び令和4年度にPFOS等非含有泡消火薬剤の需要が短期間に集中することが懸念されております。各消防本部の警防力の維持に影響が及ばないよう、令和3年8月全国消防長会技術委員会において、一般社団法人日本消火装置工業会に対し、「フッ素化合物を使用する泡消火薬剤の生産体制の確保に関する申入れ」を行うことについて審議し、決議されたことから今回の申し入れを行ったものです。

◎ フッ素化合物を使用する泡消火薬剤の生産体制の確保に関する申入れ内容

PFOS又はその塩（以下、「PFOS等」という。）を含有する泡消火薬剤の廃棄、更新に関して、消防庁消防救急課長通知（令和2年6月1日付け消防消第164号）により該当消防本部は令和4年度末までに完了するよう努めており、その更新に伴うPFOS等非含有泡消火薬剤の調達需要量は令和3年度が約355,0000、令和4年度は約496,0000に及ぶことが報告されております。

その最中、令和3年4月にPFOA又はその塩（以下、「PFOA等」という。）が化学物質の審査及び製造などの規制に関する法律の第一種特定化学物質に指定され、また、PFOA関連物質についても、今後規制される予定であることから、多くの消防本部がPFOS等含有泡消火薬剤を廃棄、更新する時期について、調達を予定している泡消火薬剤が規制対象となるか否かが判明した以降に行うものと思慮されます。

全国消防長会技術委員会でも、PFOS等非含有泡消火薬剤の需要が短期間に集中することが懸念されることから、その調達量と調達時期について当委員会所属消防本部に調査を行い、その結果を全国消防長会本会事務局へ報告しました。

その結果を踏まえて、全国消防長会本会事務局が泡消火薬剤メーカーに直近3年の出荷実績と増産可能量のヒアリングを実施し、その集計結果が当委員会へ報告されました。

これらの状況から、下記事項について貴工業会へ申し入れいたします。

記

各消防本部では、令和4年度末までのPFOS等含有泡消火薬剤の廃棄に向けて計画を策定し、PFOS等非含有泡消火薬剤への更新を進めているが、その需要は近年の泡消火薬剤メーカーの出荷実績量を大幅に超えるものです。

また、各メーカーによる増産可能量と照らし合わせても、なお、厳しい状況であることから、フッ素化合物を使用する泡消火薬剤の供給不足に陥ることが懸念されております。

つきましては、各消防本部の災害活動に影響が及ばないよう、生産体制の確保をお願いいたします。

全国消防長会 事業部事業企画課
担 当：森田・疊（もたい）
電 話：03-3234-1321
FAX：03-3234-1847
e-mail：jigyo-3@fcj.gr.jp

消 防 本 部 の 動 き

訓練・演習

◆ 解体予定の旧消防団詰所で火災救助想定訓練を実施

石狩北部地区消防事務組合消防本部（北海道）

石狩北部地区消防事務組合消防本部石狩消防署では、令和3年8月19日（木）、20日（金）の2日間、解体予定の旧消防団詰所を利用した火災救助想定訓練を実施しました。

この訓練は、現場経験が少ない若手隊員の火災現場対応能力の向上に主眼を置いて実施したものです。

当日は、想定をブラインド型にするとともに、建物内部にスモークマシンで模擬白煙を充満させることで、より実戦に近い環境を再現し、現場到着時のホース延長から屋内進入、屋内検索、要救助者救出に至るまでの一連の流れの訓練を実施しました。

訓練後には、若手隊員に対してフィードバックを行ったほか、若手隊員の疑問や質問に対してベテラン隊員が答えるなど、部隊全体で火災現場活動の再確認を行いました。

今後も継続して訓練を実施し、各隊の連携強化や現場対応技術の底上げを図り、住民サービスの向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 新任職員による消防活動展示訓練を実施

岩国地区消防組合消防本部（山口）

岩国地区消防組合消防本部では、令和3年8月20日（金）、いわくに消防防災センター訓練場において、実務研修中の新任職員による消防活動展示訓練を実施しました。

この訓練は、現場活動に必要な知識、技術及び体力を身に付けるため、10日間にわたって実施した研修の集大成として、職員の家族を招待して行ったものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、入校式など職員の家族が参加できる消防学校行事が中止となっていたことから、職員の成長した姿を見ていただく良い機会となりました。

今後も訓練を重ね、地域住民に安全・安心を与えられる職員の育成に精励してまいります。



【訓練の様子】

◆ 多数傷病者災害対応訓練を実施

大垣消防組合消防本部（岐阜）

大垣消防組合消防本部では、令和3年8月24日（火）、当消防本部屋外訓練場において、約50人の職員が参加し、多数傷病者災害対応訓練を実施しました。

この訓練は、多数傷病者が発生する事案に迅速・的確に対応する技術を磨くことを目的として実施したものです。

当日は、訓練想定をブラインド型にすることで、より実災害に近い環境を再現でき、緊張感のある訓練となりました。

また、訓練実施後は、評価者から実施隊に対して具体的なフィードバックを行ったことで、次につながる実効性の高い訓練となりました。



【訓練の様子】



【評価者によるフィードバックの様子】

◆ ドローン操縦合同訓練を実施

衣浦東部広域連合消防局（愛知）

衣浦東部広域連合消防局では、令和3年8月24日（火）、25日（水）の2日間、安城市にある川島河川敷公園において、岡崎市消防本部とドローン操縦合同訓練を実施しました。

この訓練は、昨年度発生した水難救助事案を受け、それぞれが保有するドローンの操作方法や検索可能範囲を確認し合うことで、より強固な連携を図る目的で実施したものです。

当日は、飛行高度やルートを打ち合わせすることで効率の良い検索方法を調整するなど、ドローンの活用方法について共通認識を深めることができ、有意義な訓練となりました。

今後も、要救助者の早期発見のため、近隣消防本部との連携強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 開業前のホテルと消防訓練を実施

今治市消防本部（愛媛）

今治市消防本部中央消防署では、令和3年8月25日（水）、開業を控えたホテルと消防訓練を実施しました。

これは、火災発生時の初動対応の確認や連携強化を目的として実施したものです。

当日は、2階客室から火災が発生したとの想定で、ホテル従業員が初期消火、119番通報、避難誘導及び傷病者の搬送訓練を実施したほか、消防隊員が梯子車による救出訓練を実施しました。

訓練後には、ホテル従業員から「火災発生時の手順を再認識できた。」との声が聞かれました。これからも機会があるごとに各事業所との合同訓練を実施し、有事の際の円滑な現場活動につなげてまいります。



【訓練の様子】

研 修 等

◆ 阪神・丹波地域MC協議会事後検証委員会リモート研修を実施

西宮市消防局（兵庫）

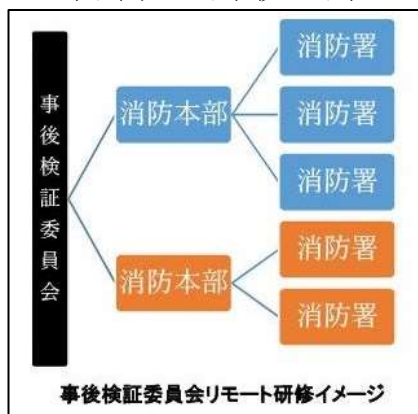
西宮市消防局では、令和3年8月18日（水）、阪神・丹波地域MC協議会事後検証委員会リモート研修を実施しました。

これは、2か月に1度、同協議会が開催する事後検証委員会を「医師が参加する研修会」と位置づけ、同協議会に属する消防本部（9市1町※）がリモートで傍聴しているものです。

同協議会では、この研修により、コロナ禍でも研修（再教育）の機会を確保でき、受講者数を大幅に増やすことが可能となっています。

今後も、各本部の指導救命士をはじめとした指導的立場にある多くの救急救命士たちが、MC協議会に参画することができる機会を設け、消防本部間の連携を図ることでMC体制の強化につなげてまいります。

※尼崎市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、丹波篠山市、丹波市、猪名川町、西宮市



【事後検証委員会リモート傍聴（研修）のイメージ】

そ の 他

◆ 「1000人画廊」で住宅用火災警報器をPRする壁画を制作

鹿島地方事務組合消防本部（茨城）

鹿島地方事務組合消防本部では、令和3年8月18日（水）、「1000人画廊」に住宅用火災警報器をPRする壁画を制作しました。

この「1000人画廊」は、管轄する神栖市が市民参加型のまちづくりの一環として実施したもので、全長約6kmの海岸線護岸壁面をキャンバスにし、一般公募による市民が大きな壁画（1つの壁画の大きさ：縦1.7m、横4m）を描くというものです。

当消防本部では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、住民と対面する形では住宅用火災警報器をPRする機会が少なくなったことから、この試みに参加し、約2週間の制作期間を経て壁画を完成させました。

今後も、様々な媒体を活用し、市民に住宅用火災警報器の設置推進などをPRしてまいります。



【制作の様子】



【完成した壁画】

◆ 「井原デニム」を使ったホースバッグを作成

井原地区消防組合消防本部（岡山）

井原地区消防組合消防本部では、令和3年8月30日（月）、地元企業の協力により、地元特産の「井原デニム」を使ったホースバッグを作成しました。

これは、井原がデニム生地工場やジーンズの縫製・加工工場などが集まる産地で、デニムの聖地「いばら」と呼ばれていることから、井原をPRする目的で作成したものです。

このホースバッグは、職員が設計したもので、バッグの中に島田折りのホース3本と分岐1個が収納でき、かつバッグ全体が消防車の側面BOXに収納できるサイズです。また、一部にマジックテープを施しており、用途に合わせて多種多様なアレンジも可能です。



【ホースバッグの様子】

消防学校からの便り

◆ 第107回全国消防学校長会総会の審議結果に基づく要望活動を実施

全国消防学校長会

全国消防学校長会は、令和3年8月31日（火）、第107回全国消防学校長会総会の審議結果に基づく「消防学校の教育訓練施設整備等の支援措置に関する要望」を総務省消防庁長官宛に実施しました。

今回の要望では、君嶋会長が小宮消防庁次長に対して、全国の消防学校の現況について詳しく説明するとともに、以下の3点の要望事項について伝えました。

- 1 消防学校の教育訓練施設整備に係る支援の拡充について
- 2 新型コロナウイルス等感染症感染拡大防止を図るための施設、設備等の整備について
- 3 DX推進による消防学校教育環境の拡充について

小宮消防庁次長からは、多くのご質問をいただき、「全国の消防学校の状況がよくわかりました。しっかり検討していきます。」と回答をいただきました。

全国消防学校長会では、消防職団員の育成を担う全国の消防学校において、より一層の消防教育の充実が図られるよう、継続して事業を推進してまいります。



【小宮消防庁次長（右）への手交の様子】



【要望要旨の説明の様子】

消防庁通知等

◆ 新型コロナウイルス感染症に係る周産期医療提供体制の確保への対応について

(消防救第297号、令和3年8月23日)

消防庁次長から各都道府県知事（各都道府県消防防災主管部（局）長）あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

消防機関における新型コロナウイルス感染症への対応については、これまでも、的確な対応をお願いしているところです。

こうした中、令和3年8月17日、千葉県において、自宅療養中の新型コロナウイルス感染妊婦が自宅で早産となり、新生児が死亡するという大変痛ましい事案が発生いたしました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/b116da5ee342d206fdf1ca914e6ffaa0349d603b.pdf>)
に掲載されています。

【問合せ先】

連絡先 消防庁救急企画室

担 当 伊藤理事官、小塩専門官、岡澤補佐、石田係長

TEL：03-5253-7529

FAX：03-5253-7532

E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

◆ 建築物防災週間（令和3年度秋季）の実施について

(事務連絡、令和3年8月24日)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

標記について、「建築物防災週間（令和3年度秋季）の実施について」（令和3年8月6日国住指第1313号）により、国土交通省住宅局長から別添のとおり協力依頼がありましたのでお知らせします。（別添省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/0fbc05ac438979d67dcff68909c19952159b00df.pdf>)
に掲載されています。

<連絡先>

消防庁予防課予防係

佐藤・宮田

Tel (03)5253-7523

◆ 在宅酸素療法時における火災予防上の留意事項について

(事務連絡、令和3年8月25日)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

貴職におかれましては、平素から消防行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、在宅酸素療法を行う自宅療養者が増加しています。
—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/210825_yobou_jimu1.pdf) に掲載されています。

消防庁予防課予防係
担当：佐藤、河野
電話：03-5253-7523
E-mail：t3.kawano@soumu.go.jp

◆ 入院外患者に一時的に酸素投与等の対応を行う施設（入院待機施設）の整備への対応について（依頼）

(事務連絡、令和3年8月26日)

消防庁救急企画室から各都道府県消防防災主管部（局）あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

今般、各地で新型コロナウイルスの感染の急拡大により、患者が増加している中、「救急搬送困難事案」についても、令和3年8月には、令和2年4月の調査開始以降最多となり、厳しい状況が続いています。各消防機関におかれては、地域における搬送体制の確保の観点から、保健所等からの要請に基づき患者等の移送に協力するなど、引き続き、必要な対応に全力で努めていただいていることと承知しています。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/jimuren.pdf>) に掲載されています。

【問合せ先】

連絡先 消防庁救急企画室

担 当 小塩専門官、岡澤補佐、石田係長、吉岡事務官

TEL：03-5253-7529

FAX：03-5253-7532

E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

報道発表

◆ 令和3年7月の熱中症による救急搬送状況

(令和3年8月24日、消防庁)

熱中症による救急搬送人員について、令和3年7月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/210824_kyuki_1.pdf)に掲載されています。

(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：若味、入江、富樫
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7532

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0314）1ページ、機関誌「ほのお」2021年4号（4/25発刊）25ページ又は5号（5/25発刊）30ページを参照願います。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当：企画課 菅原

原稿データは、kikachosei@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

- ・文章は、Wordで150文字以内で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 菅原

原稿データは、honoo@fcj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

記事の投稿に関する注意点

- ・配信日（原則火曜日）に近い時期のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321「週間情報」担当：企画課 浅倉

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。